# 発刊のお知らせ

『ゾラン・ジフコヴィッチの不思議な世界』

訳：　山田　順子

解説：　巽　孝之

近年の大注目株である旧ユーゴスラビア出身の現代作家――ゾラン・ジフコヴィッチの初の邦訳短編集。SF から始まり、シュールレアリスム、幻想文学と進化をとげてきたジフコヴィッチ氏の小説の中から、珠玉の三作品――「ティーショップ」「火事」「換気口」――を収録。シンプルな文章に秘められるのは、小気味よく効かされたアイロニー、悪夢と紙一重のシュールさ、鋭い観察眼からはじき出される緻密な人間の内面描写。幻想、悪夢、現実が複雑に絡み合い、甘美なまでに織りなす独自の世界は、現代幻想文学の名手ならではの確かな読み応えを感じられる。政治紛争の印象が強い東欧という、日本から遠く離れた場所から発信されてなお、ジフコヴィッチ氏の深遠な幻想世界は決して色褪せることがない。

本書冒頭の「ティーショップ」は、列車の待ち時間をつぶそうとした主人公、ミス・グレタが、ふと目にとまった駅前のティーショップに立ち寄ることから始まる。彼女が好奇心から注文したのは「物語のお茶」。そのお茶には物語がついてきた。まずはウェイターがやってきて、元処刑人の話を始める。ウェイターが通常の仕事に戻るやいなや、今度はレジ係の女がやってきて、話の続きをつむいでいく。ついには客までが入れ替わり立ち替わりミス・グレタの席にやってきて、店の人間たちがひとりずつ、処刑人、サナトリウムの看護師長、奇術師など奇抜な登場人物たちの奇妙な話を展開する。幻想が幻想を呼ぶ世界。好奇心と恐怖心のはざまで、主人公は物語を楽しまずにはいられない。二作目の「火事」では、ある日、司書のマーサは砂漠の丘の上に建つ古代の大図書館の夢を見た。どこからともなく現れた楽団が音楽を奏でながら、神殿にも見える大図書館の中に消えて行くと、中から炎があがり、神殿が焼け落ちる。業火の中から鳴り響く不気味な演奏がマーサの耳から離れない。夢から覚め、いつも通りに職場である図書館に出勤したマーサだったが、突如、パソコン画面にあの神殿が出現する。内部の壁の書棚に並ぶ、おびただしい数の古代の巻物。演奏をしながら神殿に入っていく楽団。巻物を燃やすたいまつの炎。響き渡る不気味な音楽とともに、神殿を焼き尽くす業火は、マーサのパソコン本体にもその手を伸ばし、悪夢と現実が混じりあう。最後の「換気口」では、事故のあと、未来が見える能力を得て、自殺未遂をはかった患者カタリーナを、アレクサンダー医師が診察する。カタリーナがまぶたを閉じると見えるという未来は、無数のガラスの紐のようなもの。その中の一本を選ぶと未来が決まる。カタリーナは自分の未来を予測し、医師の想像を絶する方法で、じつに正確に自殺計画を実行しようと試みる。

ジフコヴィッチ氏は１９４８年、旧ユーゴスラヴィア・ベオグラードに生まれた。１９７３年、ベオグラード大学文献学部総合文学科卒業。７９年に修士号、８２年に博士号を取得。現在、母校ベオグラード大学にて創作文芸の教授職にある。９０年代のユーゴスラヴィア紛争をくぐりぬけながらも執筆活動を続け、２００３年度世界幻想文学大賞を受賞。２００９年には世界幻想文学大会のゲスト・オヴ・オナーに選出された。

150 ページ
ISBN: 978-4-902075-16-8
定価: ¥800
表紙：Relja Penezic
発売日：2010 年 10 月 31 日